

社格 郷社

所在 出石内町 字 諸杉 (出石郡出石町)

須流神社

祭神 稱主權明神

祭日 十月二十日

社格 村社

所在 赤花村 字 主 榎谷 (出石郡資母村大字赤花)

佐々伎神社

祭神 大彦命 稱 佐々木大明神

今按神名帳頭註に佐々伎少彦名とあるは彼鸚鵡の羽を衣としたる故事より誤り傳へたる歟又は大彦命は佐々貴山公の祖なれば大彦命を少彦名命とあやまれるならん

祭日 八月二十五日

社格 村社

所在 佐々木村 字 宮 (出石郡合橋村大字佐々木)

日出神社

祭神 多遲摩比泥 正 改

今按社傳に多遲摩比多阿を祭ると云へど日出と比泥と昔相近く社地の字を日殿と云も比泥に由あれば今之を訂せり

祭日 九月三日

社格 村社

所在 (明細帳畑山) (出石郡資母村大字畑山)

今按式社道志流倍に畑山村日出大明神あり畑山の内に宮本と云所あり又日向村日和坂村日落谷など云所ありされば畑山村なるは式社なり南尾村榊森明神云はいかがあらんと云り尚よく考ふべし

須義神社

祭神 稱 菅八幡

今按姓氏錄中臣習宜朝臣同神孫味瓊杵田命之後也とあり須義神と云によらば習義朝臣の氏人の祖鸛速日命を祭れるか神名帳頭註に三輪同體とあるは須義をすぎと訓て三輪の神杉を思ひよせたるならん猶よく考べし

神位 清和天皇貞觀十年閏十二月二十一日庚戌授但馬國正六位上管神從五位下

今按この神位を神社叢書に衣川氏の説を引て二方郡須加神社の事ならんと云れど須加はすかにてすがにあらず須義神は管神なる事著きが上に但馬考にも此神位を須義神と云る當れるに似たり故今之に従ふ

祭日 九月二十五日

社格 村社

所在 荒木村 (出石郡小坂村大字荒木)

小野神社

祭神 天帶彦國押人命

祭日 九月一日

社格 村社

所在 口小野村 字 宮 (出石郡神美村大字口小野)

手谷神社

祭神 埴安神

祭日 九月十二日

社格 村社

所在 河本村 字 阿 (出石郡合橋村大字河本)

中島神社

祭神 多麻母理

今按社傳多遲摩母理を祭ると云に鎮座の村名を三宅と云ふも由あればいかにも古傳なるべし其は姓氏錄橋守三宅連同祖天日神命之後也三宅連新羅國王子天日神命之後也とみえ古事記 天皇以三宅連等之祖多遲摩毛理遺常世國令求登岐土玖能迦玖能木實云々とみえたるもの證すべし

祭日 九月十五日

社格 村社

所在 三宅村 字 森 (出石郡神美村大字三宅)

大生部兵主神社

恒馬國 出石郡

祭神 素盞鳴尊 稱 有庫神社

祭日 九月十五日

社格 村社

所在 奥野村 字 宮 (出石郡神美村大字奥野)

今按藥王寺にも此社ありと云へども確證なし此村穴見莊内にあり東大寺古文書に但馬國出石郡穴見莊戸主大生部直山形と云人あるを考ふるに大生部兵主神社この地にあるの證とすべし故今之に従ふ

阿牟加神社

祭神 天穗日命

今按式帳丹波國天田郡奄我神社も祭神天穗日命にて聖明神と云ふもの互に證とすべし

祭日 六月十六日

社格 村社

所在 虫生村 字 宮 (出石郡資母村大字虫生)

今按式社道志流倍に諸帳面に森尾村にありと云るは誤れりされどもそれ同神を祭れるにて字あむか峠と云あり虫生村には古き峠あり裏銘に阿牟加神社とあり又あむか側あむか杉など字に残れりと云り附て考に備ふ

比遲神社

祭神 豐字加之賣神

祭日 八月二十三日